



森林報告第五號  
草稿

服部文庫  
イ 17  
2173  
4





117 特  
2173  
4

本林林報告 第五號

本局本林林報告第五號ニ順叙ス所ノ造林法ニ前号既ニ之  
ヲ廣クシテ次ニ培養法ト云培養ノ至要タル園圃ヲ説クテ以テ注

意ニ急タラサフシテ欲ス培養ハ必ス擁護ト相待テ行ハ  
モノナリ而其擁護ノ大眼目ハ前號ニ掲出スル十一條大抵ニ  
其要旨ヲ尽ス故ニ本號ニ專ラ培養ヲ論シテ保護ノ一二ヲ  
帶説ス

凡ソ天壤ノ間ニ生スル者巨細頭微ヲ問ハス苟モ形質アルモノ養  
ヲ以テ其性ヲ遂ケルハ無クシ故ニ養ヲ得ル所ハ小ナル者ハ速ニ大ナル  
者ハ大生ス其資ヲ以テ生スル所ノ者皆其性分ヲ遂成セサルハナシ若

氣物  
一

服部文庫  
117  
1891

117. 1891



其養ヲ失フニ至テ瘠弱病瘁シテ大クノ性ヲ遂クハ能ハス室堆  
性ハラ遂クハ能ハサルノミナラシヤ亦朽爛シテ槁死スルニ至ラン  
ノ之是レ動物ハ始ラク之ヲ舍キ植物ニ在テ最モ培養ヲ謹ミシハ  
アルヘカラサル所以ナリ

夫造化ノ萬物ヲ生スル一草一木ノ至微至小ト雖長養ノ方ヲ与ヘサ  
ルナシ故ニ其至微至小ナル者モ自ラ生スヘキノ地ニ生シ生スヘカラサル地ニ  
生セス其生スヘキノ地ニ生スルヲ以テ天地自然ノ養ヲ得テ能ク生長  
繁殖ヲ致ス生スヘカラサル地ニ生セサルヲ以テ寒ニ燥燥湿ノ不適アリテ  
其性ヲ害スルナシ 是レ山野自生ノ植物ヲ云フ人カラ以テ之ヲ種養スルニ至テハ  
鼠モ寒ニ燥燥湿ノ不適ヲ候シ心ヲ尽シテ保護培養セサルナリ  
然リト雖亦説アリ其生スヘキノ地ニ生スルヲ待シテ想馬トシテ心ヲ用ヒサル

國語

時ハ時アリテ大旱露雨ニ因テ其生ヲ遂ケルモノアリ其生スヘカラサルノ  
地ニ生セサルニ安シテ之ヲ放棄スル中ハ材用繁殖ノ道何ニ由ラズ  
ヲ得ン亦終ニ空乏ノ患ヲ貽サンノ故ニ人アリテ之ヲ拮据シ之ヲ擁護  
シ之ニ申サヌルニ誠實勉強ヲ以テスル中ハ寒ニ土ニモ温ヲ与フヘク湿土ニモ燥  
ヲ加フヘク埴土モ燥ナラシムヘク硬土モ鬆ナラシムヘク是レ之ヲ培養ト  
謂フ

其レ是ノ如クナル故ニ温ヲ好ム者ヲ取テ之ヲ寒地ニ種藝スル中ハ空室ヲ  
作テ秋冬ノ風霜ヲ避ケケ室ヲ南ニシテ太陽ノ温熱ヲ取ル如此ルテ數  
年漸ク其地質ニ慣ルヘク待テ後漸ク其保護ヲ弛ル中ハ亦以テ其  
生成ヲ遂ケシムヘシ寒ヲ好ム者ヲ取テ暖地ニ種藝スルノ法ニ及ス



是レ人カラ以テ生スヘカラサルノ地ニ就テ生スヘカラサルノ物ヲ生セシムル法ナリ  
此法は多ク場師花戸ノ所為ナリ然レモ以テ大ニ及キヘシ  
ホ林林ヲ仕エルノ法自ラ資ル所アラン

培養ノ植物ニ急ル前ニ云フ所ノ如シ最モ講究シテ決メテ之ヲ懈ルヘカラサルモノトス然リ而シテ穀草ノ類ハ本局ノ管カ所ニテ如シ惟  
樹木上ニ就テ其利害ヲ説カントス

凡ソ養分ノ物性ヲ生成スル所以ヲ大別シテ二トス一ハ天地自然ノ養ニ入  
力ノ培養天地自然ノ養ト何ヤ甲大陽甲地質甲水由風曰

雨曰雪等アリ以テ温熱潤湿ヲ配賦シ窒素酸素ヲ作用以又其物ニ就テ各  
種ノ作用カラ具根ハ山物質ヲ吸取シ葉ハ窒素  
酸素ヲ分解吸収スルノ類以テ其生成ヲ遂ケル公是

天地自然養分ノ最大ナル者ナリ故ニ陽光照射シテ温熱ヲ与ヘ水湿流

山物質  
水由風

融シテ滋潤ヲ与ヘ風鼓動シテ滞氣ヲ流通シ而シテ礫類ヲ溶化スルノ  
功ノミエラス其渗透スル深クシテ以テ水湿ノ不足ヲ補フ雷雨硝氣

ヲ奈作ル雪ノ諸虫害ヲ駆除スル等皆許多ノ養分ヲ配賦スルニ由リ  
サル也地質ニ至ラハ最モ其大ナル植物ノ生長スル所以ナル四大

原素ナル者モ四原素トハ一ニ酸素ニ窒素ニ三ニ炭素ニ四ニ燐  
度母麻低涅斯母 加ホ斯母ニ 四ニ燐皆之ニ因テ用ヲ為  
サル者ナシ

又其根幹枝葉各自ニ作用カアリテ養成ノ功ヲナスコホ犹人躰四肢百骸  
脈路關節各其功用ヲ以テ自ラ養フ所アルカ如シ

又己ノ廢棄物ヲ以テ自ラ養フ者アリ落葉是ナリ深山遠谷ニ在テ樹  
ミクル森林落葉堆ヲナスモ人之ヲ掃リス随テ落テ隨テ腐敗シ其堆

堆積



キヲ遂ニ一種ノ壞去ヲナスニ至ル其本根ヲ肥養スル尋常莖首ニ比スレハ  
 一草ヲ加フモノトス故ニ前ヲ推護法ニ於テモ既ニ之ヲ明言セリ此  
 類皆是レ天地自然ノ養分ヲ得テ物性ヲ生成ス所以ノ大畧ナリ  
 是ノ如クナル故ヲ以テ深山邃谷ニ生長スル樹木ハ各ニ其性分ニ随ニ生  
 ヘキノ地ニ生シ生スヘカフサルノ地ニ生セス其生スヘキ適地ニ生シテ天  
 地ノ養ヲ得ルカ故ニ人カノ培養ヲ俟ムス能ク為大ヲ致シ蒼翠天ヲ  
 撐<sup>ト</sup>テ至リ遂ニ大ニ許多ノ山林ヲ成ス誠ニ看ヨ全國有名ノ山林多  
 木良材<sup>樹計</sup>ニ森シル千百年ノ前ニ在テ誰カ之ヲ種植セシヤ誰カ之  
 ヲ培養セシヤ人為ヲ待テ之ヲ成セシニ非ル<sup>ト</sup>昭ニテ明カナリ是  
 レ皆天然ノ養分其生成ヲ遂ケシメタル者ナリ

或ハ云フ地<sup>本</sup>運局ノ管スル所主トシテ山林ニ在リ其功用ヲ論スル專  
 ラ有用木材ニ在リ若シ今所説ノ如ク山林ノ樹木ハ天然ニ生シ天然  
 ニ長シ天然ノ養分ヲ得テ足ルト云ハ、則人為タル培養方ノ如キ講究  
 セサルモ亦害ナカラズト是レ惟其一ヲ知テ他ニ推及シ能ハサルモノナリ  
 彼ノ深山窮谷ニ生長スル者ハ固ヨリ既ニ上ニ云フ所如ク然レモ全國ノ  
 森林國家ノ用ヲ為ス者豈特深山窮谷ニ生スル巨材ヲ仰クノミナラ  
 シヤ山岡峰<sup>嶺</sup>丘陵原隰凡ソ森林アル所ノ處人民厚生ノ用ニ供セサ  
 ルハナシ而シテ日本全國ノ地形ヲ量ルニ山林ノ區域十ノ七八<sup>三</sup>居ル其  
 七八中ニ就テ假リ云峻嶽深谷ナル者ハ半<sup>三</sup>居ル者做スルハ則森林ノ山  
 岡丘陵原隰ニ在リ者殆ント全國三分ノ一ニ居ル丘陵原隰ノ



森林ノ人カヲ仰見ルヘカラサルハ固ヨリ論ヲ俟タス山岡峯密ト雖  
亦能ク人カヲ以テ種莖ニ培養シテ以テ牛山ノ美ヲ為スヘキモノ多  
シ是<sup>レ</sup>天然ノ養ニ付託シテ怡トシテ者ミサルヲ<sup>得</sup>嚴戒スル所以ナリ  
況ヤ深山窮谷ニアル者ト虽亦人カ保護ノ疎密ニ由テ大ニ榮瘁  
美惡<sup>ト</sup>見ラヤ<sup>ト</sup>木<sup>ノ</sup>培養ノ講究セサルヘカラサル所以ナリ

現今<sup>海國</sup>山林荒蕪スルヤ今日ニ在テ最宜ク現存ノ山林ヲ保護  
シテ將來着手スル山林ノ繁殖ヲ待テハカラサル事ハ既ニ前跡ニ  
云フ所ノ如ク良材巨木ノ世用ヲ為ス率トテ百年以上ノ者ニアリ  
シ棟梁ノ用ヲナスヲ能ク而シテ全國日常調クヘカラサル營繕ニ於テ  
需用スル所者其幾ナラ知ラス朝ニ一林ヲ伐尽シタニ一林ヲ

伐尽ス假令随テ伐リ随テ植ルモ百年ノ久シキヲ短ルニアラサレハ復テ用  
ヲ為スヲ能ク況ヤ一タヒ伐テ植繼ヲ務メサル中ハ全國ノ巨木良材  
方ニ將ニ死尽セントス是レ國家ノ大患ニシテ最モ之ヲ患スニハアルヘ  
カラス

夫一寸ノ苗冬夭ノ高ニ至リ而葉ノ微蔽牛ノ大ヲ為ス故ニ人カト虽亦  
以テ巨木良材ヲ造作シ得ヘキト決シテ疑ヲ容ルヘカラス然レモ種莖法  
ニ適シ培養宜キヲ得ルニアラサレハ亦之ヲ為スヲ能ク是亦疑ヲ容  
レサル所ナリ

今甲乙相並テ茶園ヲ有ス<sup>ル者</sup>地味有シク樹性有シク芽ヲ摘クノ時候  
未<sup>レ</sup>有シク焙製法モ亦存シ而シテ甲ハ上業ノ茶<sup>ヲ</sup>製シ得ルト常ニ



多ク乙得ル所ハ常ニ芳等ノモノナリ是レ甲ハ培養宜キヲ得乙ハ懶  
惰ニテ培養ヲ務メサルカ故ナリ又南太平洋諸島ニ産スル蕃薯ノ  
如キハ自然ニ能ク前熟成熟ト虽醜塊堅硬ニテ其味蠟ヲ嘗カカ如  
シト云ヘリ肥養ノ植物ニ緊要ナル此ノ如シ

森林ヲ仕シトスルニ土地ノ燥湿寒煖ヲ察シ何木ノ此ニ適スヘキヤ否ヤヲ  
吟味シ時候ヲ以テ先ツ其地ヲ耕耙シ植シト欲スル木ニ適応スル肥養ヲ  
施シ又時候ヲ以テ下種スル中ハ百活セサル者多クナシ  
是ヲ最上ノ下種法トス  
松柏ノ類此法ヲ用ス  
ヲ好ム

苗生スル後ニ至テハ最モ肥糞ノ多寡灌漑ノ疏數等ニ注意シ細心  
ニ之ヲ保護スヘシ稚苗ヲ保護スル法亦尤小兒ヲ保護スルカ如シ小兒ハ

無知ナル者ナリ人ノ乳哺飲食スルヲ待テ生長スル體口未タ飽饑ヲ  
言フヲ能ハス故ニ之ニ飲食ヲ与ルヲ多キ片ハ疾病立トコロニ至ル飲食  
ヲ与ルヲ冗ラサル中ハ羸弱ニシテ生長ヲ害ス之ヲ節シテ其度ヲ得セシ  
ムルハ保母ノ注意ニアリ稚苗モ亦肥糞ヲ待テ生長ス而シテ其度ヲ得  
サル中ハ矮曲ニシテ生長ニ害アリ一タヒ此害ヲ受ル中ハ終ニ生成ラ遂  
クルヲ能ハサルニ至ル故ニ能ク之ヲ培養シ能ク之ヲ保護シ其苗漸  
長クテ及テハ寒ヲ畏ル者ハ之ヲ為ニ風霜ヲ防衛シ暑ヲ畏ル者  
ハ之ヲ為ニ炎日ヲ遮サ故ス其苗ノ漸長スルニ及テハ柱ヲ植テ之ヲ扶  
持シ其シテ柱曲ナラシメサランヲ要シ兼テ暴風ノ折傷ヲ避ケテ  
其生成ヲ遂ケシム此ノ如クニテ始メテ善ク培養スル者ト謂フヘシ



一農家講之所養其草三十六種分三類トナ其目尤ノ如シ

一動物ヨリ資ル所者十二種

人糞 灰糞 臘土 合肥 三和土 本肥 下肥 淡水糞

人溺 小便糞 小便灰

馬牛糞 家猪屎 皇國古來馬糞ヲ貴テ牛糞ヲ賤シム泰西ノ説ニ反ス曰ク

反寄ノ獸類ニ其食物ヲ屬反寄スル故ニ尋常草食獸ニ比シ其排泄所ノ矢糞善ク消化セラルテ堆糞ニ製スルナキモ直ニ圍圍ニ施スルコト又曰ク

馬ト反寄獸ト矢糞ノ異凡馬ヲ牧ル周圍ノ草ハ甚黄衰凋シテ放ル所ヨリ其草蒼々繁茂スト重膏 改州ハ羊糞ヲ用ユ

馬牛溺 凝固塩 礫石 透明硝砂 凝硝砂 硝確精

鳥糞 水鳥 鷓鴣 雞

鳥糞善ク消化セラルテ堆糞ニ製スルナキモ直ニ圍圍ニ施スルコト又曰ク 改州ハ海鳥糞ヲ特用ス蓋シ海糞ニ全ク准ラズ者トナリ

蚕尿 其糞 蚕煨

獸肉 魚肉水 改州人專ラ之ヲ用ユ

魚貝肉 魚肉水 海燥肥

乾魚 乾魚油粕

魚油 無家猪野猪ノ脂 海鱈油 海鱈長鱈油

活物羽毛 人毛 獸毛

骨角殼 骨殼灰 改州人專ラ之ヲ用ユ

一植物造醸ヨリ資ル所者十二種

諸穀 大豆肥 豆肥 紉豆肥

諸草



厩肥

芝肥

青草

腐肥

草木灰

歐洲人亦能之銀秀ヲ用ヒテ又用ノ物ト  
ナリ  
歐洲人亦能之ヲ用ニ

米麥糠

諸穀糶

油糟

油糟水

芥子油糟殺虫

酒糟

酒糟肥

醬油糟

海河ノ藻

一土石類ヨリ資ニ所ノ者十二種

歐洲ニテ礦物質ト云フ者即是  
リ凡ノ礦物質ニ者皆多ク培養

ノ質ヲ具  
フト云フ

屋上ノ煤

屋下ノ芥

炭硝硝

精硝硝

塵埃

灰日泥

硝硝海塩

硫磺石

紅砒石

砒礬灰

草高用

内務省



石灰

膏煨灰

石炭灰

溝河泥

厨下水

魚洗水

米泔水

浴湯水

河砂

客土

右ノ三十六種ヲ以テ之ヲ調和シ之ヲ釀熟シ或ハ長流水兩水ヲ加ヘ其性ノ猛烈ナル者ヲ和ラケ或ハ精煉ノ術ヲ尽シテ其質ニ含有スル所ノ物ヲ取ル等ニ至テ其用タル凡ハ八十而ル後土地ノ燥湿ヲ相シ氣候ノ寒暖ヲ察シテ之ヲ糞培ル凡ハ百ノ植物其生成ヲ遂ケタルナリ

秘録等ノ農家書ニ載ス故ニ此ニ贅セズ

肥糞ノ性能植物ヲ養成スル尤藥劑ノ人ノ疾病ヲ療カス如シ藥ニ

寒湿冷熱種ニノ性アリ肥糞ニモ亦之アリ故ニ樹木ノ寒ヲ畏ル者ニ

ハ熱物ヲ与ヘ熱ヲ畏ル者ニ冷物ヲ與ヘ惟植物ニ隨テ冷熱物ヲ与

ルノミナラス土地ニ於テモ亦此法ヲ用テ燥地ニ滋潤ノ物ヲ以テシ湿地ニ

ハ温熱ノ物ヲ以テシ粘墮ノ地ニ虚膨ノ墟土ヲ以テシ輕乾ノ地ニ收斂ノ

物ヲ以テ其質ノ不足ヲ補フ凡ハ土地モ亦培養法ヲ以テ其質ヲ變化セシ

ムヘシ其功亦偉キナラスヤ

人糞ニ無上ノ肥養ナルヲ五尺ノ童ト雖能之ヲ知ル然レモ熱糞ヲ用ス

ルハ效ナシトシ或ハ之ヲ害スルヲアリ

糞ト云フト云フ或説寒中ニハ大害之ヲ貯久シテ宿

亦單ニ用ルルハ其効能他糞ノ能ク及ブ所ニアラス宿糞ト雖

立高月



養亦皆此ノ如シ 歐洲唯養ヲ貴フ  
亦此意ナリ

木ニ人養ヲ已ム者アリ 松ノ類是ナリ 他物ノ如キモ之ヲ用テ度ニ区ル

中ニ必虫ヲ生ス 梅類  
性別セツナリ

大抵果木ニ培養スルハ 獸肉水ヲ可ナリトス 其効能量ルヘラレル

者アリ 歐洲培養法亦  
多ク之ヲ用フ

糞草ノ法農家歴世苦辛ニテ講スル所大異也 一ツ云ノ如シ

然レモ其之ヲ用フルノ法ニ至テハ 筆端口吻ヲ以テ説明スヘカラス必ス

細心ニ其性能ヲ詳明ニシ 其實効ヲ歴試シ 各自之ヲ心ニ會得シ

尚且土地ノ性質ト氣候ノ寒熱トヲ察シテ之ヲ施スニテハ 尤モ

ク其妙ヲ尽スニ至ラス況ヤ 各地方ニ於テ亦數百年ニ歴試シテ

後  
學  
歴  
試  
ノ  
意  
也

所ノ習慣ナルモノアルヲヤ 豈輕易ニ談スヘシヤ 然リトモ 余報告

スル所ニ專ラ 林政ニ急ヤリ 各其土地ニ於テ心裁ニ之ヲ求メ 森林

ノ逐年繁茂スル亦期シテ待ツヘシ 培養ノ講究セサルヘカラ

ナル所ナリ







